

天然ウナギ卵発見

23.2.3
宮日、東大 教授ら 日本南2000キロ海域 世界初

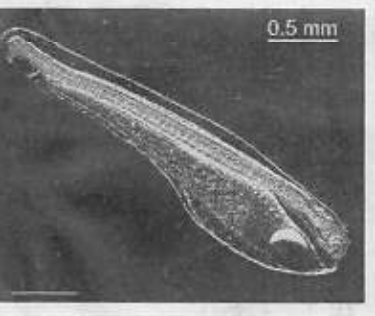
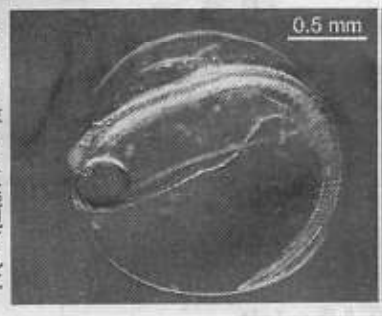
天然のニホンウナギの卵31個を、日本から約2千キロ南にある太平洋・マリアナ諸島西方沖で、東京大気海洋研究所の塚本勝巳教授らの研究チームが発見した。亜種も含め19種いるウナギで卵を見つけたのは世界初。長年の謎だった産卵の位置を特定し、新月に合わせて産卵するとの説も証明した。

現在消費されるウナギの大半は、回遊する天然の稚魚を捕まえて育てる養殖だが、資源の激減が大きな問題になっている。チームは「(卵からの完全な)養殖技術の促進や、ウナギの保全と国際管理の科学的根拠になる」としている。

1日付の英科学誌ネイチャー・コミュニケーションズに発表された。チームは2009年5月、深さ3千〜4千メートルに千メートル以上の海山が連なる「西マリアナ海嶺(かいらい)」の南



ニホンウナギの産卵場所と回遊経路



2009年5月に発見された天然のニホンウナギの卵(左)と船上でふ化した仔魚(東京大気海洋研究所提供)

た。卵は約36時間でふ化するといいい、船上でふ化した卵もあった。

卵の採取場所を詳しく調べると、ふ化したばかりのウナギの子とも(仔魚(じぎよ))は深さ160メートル付近に集中。卵は深さ約200メートルで生まれた後、ゆっくり浮上するとみられる。ウナギは深海底で産卵するとの説もあったが、チームは深い海の比較的浅い部分で産卵するとしている。同じ海域で、産卵に来たニホンウナギなど2種の親魚計15匹も見つかった。

調査は1970年代に始まった。チームは産卵場所を海山付近と推定。ウナギの内耳にある耳石の分析から産卵時期は新月に一致すると考えられた。

05年には、ふ化後2日目の仔魚を採集したが卵は見つからず、08年からは水産総合研究センターなどと共同で船を増やし再調査。塩分濃度が急激に変化する潮目と、海山とが交わる地点を集中的に探し、今回、新月の2日前に卵を発見した。

天文学的な確率

【研究チームの塚本勝巳・東京大気海洋研究所教授の話】1回の航海で調べられる海水は、広い海の中で東京ドーム2杯分だけ。36時間しか寿命がない卵を網の中に収めるのに成功するのは、天文学的な確率だ。運が良くてほっとしている。今回の研究で産卵の生態が詳しく分かり、絶滅にひんしたウナギ資源を子孫に伝えるために重要な知見が得られた。ウナギの値段が変わるわけではないが、管理の方策や人工養殖の技術など、将来必ず役立つ仕事だと思っ。